

苫小牧市立清水小学校学校便り

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

第 8 号 平成 29 年 11 月 27 日発行

「語彙力の大切さと読書の必要性について」

11月は

「親子読書」

強調月間です

親子いっしょに
同じ時間、
同じ場所で
読書をしましょう



とまきやう

苫小牧市教育委員会・苫小牧市立中央図書館

最近の子ども達は、「ヤバい」「すごい」「うける」「きもい」などきまりきった語彙をよく使います。自分の気持ちを表すのにそんな語彙だけで済ましてしまうのです。たとえ豊かな感受性を持っていても、「やばい、マジすごい」としか表現できなければ、自分の気持ちを正確に理解してもらうことも、共感を得ることも難しいと思います。

人間は言葉を使って思考する生き物なので、獲得した語彙の範囲でしかものを考えたり、何かを理解したりすることはできません。日常生活を送る上で必要な語彙数は3000語前後ですが、それは小学校入学前に獲得しているそうです。小学校入学から高校までに習う語彙数は約1万語で、日常会話やテレビなどで使用されている語彙はすでに獲得している語彙に過ぎません。では、新しい語彙を獲得するにはどうしたらよいのでしょうか。そこで大きな役割を果たしているのが「読書」なのです。

読書週間のある子どもが1年間に接する語彙量

80語×20分×200日（年間に読書する日数）＝ 32万語

1年間に接する語彙の5%が未知語（今まで知らなかった語彙）

32万語×0.05＝ 16000語

16000語の未知語の1割を身に付ける

16000語×0.1＝ 1600語

小中高の12年間読書週間を継続

1600語×12＝ 19200語

学校で習う語彙数の2倍ほどの語彙数を読書で得られるのです。現在読書離れが進んでいる

と言われています。おかげさまで、本校の子ども達は本が好きな子が多いです。全国学力学習状況調査（6年対象）で「読書が好きですか」の問いに「好き・どちらかという好き」と答えた割合が、89%となり全国平均を大きく上回りました。図書ボランティアのひだまりや図書館司書による働きかけもありこのような結果になったと考えられます。

子ども達が読書などを通して出会った言葉は、普段の会話の中で使われることで定着されていきます。子ども達が今どんな語彙を獲得しようとしているのか、今取り組んでいる教科書や読んでいる本にぜひ家族も目を通して、普段の会話に登場させる語彙を意識して増やしてみたいかがでしようか。

